

# 「大学で学ぶとはどういうことか」

HIROSHI FUJINO

経済学部助教授。  
留年と留学をしたので、私は十七年あまり大学で学んで一学ぶのを怠って一過ごした。就職した時には41歳になっていた。自分がやっていることに自信らしきものを感じられるようになったのは、37歳の時だった。それまでは、ひたすら劣等感に苛まれながらの人生だった。学生生活が長すぎたとも言えるが、もし四年で卒業せねばならなかったとしたらと想像すると、そっとする。



藤野 寛

「大学で学ぶとはどういうことか」ということであるべきか」とは、二つの異なる問いだ。現実への問いと理念の問い。倫理学を学んでいると、説教めいたことができなくなる。そういうわけで、ここでは、前者の問いについて考えてみたい。

## 1 のんきに勉強などして いられない?

大学で学ぶのは難しい。なぜか。大学に入る時期と、いわゆる「成人」の時期がぶつかるからだ。十八歳とか二十歳になると、それまで許されなかった色んなことを、急に、してもよろしいということになる。車の免許が取れる、パチンコや競馬ができる、お酒が飲める、煙草が吸える。多くの学生は一人暮らしなど始めるから、巨大な自由が転がり込んでくる。学生運動に身を投じるという可能性もある(あった?)。そして何よりも、いわゆる「性にめざめる頃」の真っ只中だか

ら、彼氏や彼女を見つけるといふ切実な課題が浮上してくる。そんな時に、呑気に勉強などしていられないとしても、無理もない。

「自由」というのは厄介なもので、外からの干渉や強制がないだけでは、「自由を謳歌」という具合にはいかない。誰にも何も言われないからといって、ただテレビの前にならわっているだけの人が、自分を自由だと感じるだろうか。自分で自分を律する、ということ(単なる「自己決定」ではなく「自律」)が、やはり、「自由」には含まれるようだ。

## 2 「したいこと」「すべきこと」 「できること」

一般に、人生の中で、人は—大学生であるうがなかるうが—「したいこと(欲求)」と「すべきこと(義務)」と「できること(能力)」との調整の問題で苦勞するのだ、と要約できるだろう。ところが、「自分は何をしたいのか」「何をすべきなのか」「何ができるのか」というのは、そのどれをとっても、なかなかよくわからないものだ。

ただしも一番わかりやすいのは、「何をすべきなのか」だろう。大学であれば、「勉強」がそれであり、何単位取らなければならぬか、とか具体的に規定されてもいる。

ところが、「自分は何がしたいのか」は、誰にも聞くことができず、自分に尋ねるしかないことなので、はるかに難問だ。特に、大学に入るまで、多くの人は、ただひたすら「志望大学に入りたい」とだけ思って受験勉強とかしてきているので、いざ大学に入ってから「さて今から自分は何がしたいのか」と自問しても、これといって何も思い浮かばない、としたものではないか。途方に暮れたあげく、勉強でないことだけは確かだからと、とりあえずおもしろそうなサークルに入ってみる、とかしたりするのではないか。

## 3 自分の中にどんな能力が 潜んでいるか? —まずわからない

一番わからないのは、「自分には何ができるのか」だ。人間はその持てる能力のほんの

# 2

大学で「ま・な・ぶ」とは、  
どういうことか

一部分だけを使って死んでいくのだ、という話を聞いたことがある。実際に使う能力なんて、もともとそなえている能力に比べれば氷山の一角のようなものだ、というのだ。私は、この見解は正しいのではないかと、思っている。今自分にできることなんて、どれも、それができなかった時には自分など到底できるとは思えなかったことばかりなのではないか。例えば、私は哲学などということをやっていて、あれこれ色んなことを考えるのだが、何かを考えてみる、それは、ほんの直前まで自分がそんなことを考えるなんて思いもよらなかったようなことばかりなのだ。つまり、「自分に何ができるのか」というのは、できてみて初めてわかることで、できるまではさっぱりわからない、という点が悩ましいところなのだ。自分の中にどんな能力が潜んでいるかなんて、まずわからない。

## 4 劣等感を うまくコントロールする

そこで、われわれは、他の人と自分を比べ

て自分の能力を測ろうとする。でも、これは、大体うまくいかない。他の人の方が優れて見えて、劣等感に陥ることになるとしたものだから。どうしても劣等感をうまくコントロールできるか、言い換えれば、どうしても自信をもてるようになるか、というのは、大学生活のもっとも難しい問題の一つだろう。

順序として、まず「自分は何がしたいのか」がわかり、それを実現するためには「何をしなければならぬのか」がわかり、次第に自分には予想もできなかったような「何ができるのか」が見えてくる、という風にすれば、理想的だ。しかし、これは「理想」であって「現実」ではない。現実には、まず「自分は何がしたいのか」がわからない。それなのに、周りの教師や先輩が「何をしなければならぬのか」をやいのやいの言ってくる。そして、そんなことは大体できない無理な注文ばかりなので、そうすると「自分はダメだ。何もできない」とか暗い気持ちに落ち込んでいく、ということになる。そういうものではないだろうか。

## 4 ああ、難しい

つまり、「大学で学ぶとはどういうことか」という問題が出題されたら、とても難しいことです、と答えるのが正解なのだ。

